



チャレンジ！一歩前へ

郡山市立橋小学校
学校だより No.30
令和6年11月14日
文責：校長 酒井 健

◇言葉のもつかって、すごいですね！！

言葉は、相手に気持ちを伝えるツールです。また、言葉一つで、優しい気持ちになったり、逆に悲しい気持ちになったりもします。今回は、言葉ってすごいなと感じた3点をご紹介します。

まず、はじめに、「第58回 ぼくらのひろば」で特選に選ばれました、6年 藤田唯望さんの詩をご紹介します。

私にしかないもの
郡山市立橋小学校六年
藤田 唯望

もっと背が高ければよかったのに
もっと足が速ければよかったのに
もっと指が長ければよかったのに
もっと体が丈夫だったら
よかったのに

でもお母さんは言う
「ピアノとバイオリンが
弾けるじゃない」

「何事にも
いっしょうけんめいじゃない」
「だれにでもやさしいじゃない」

人はどうしても
自分にないものをほしがる

人はどうしても
自分とだれかを比べる

でも
自分にないものを見つけるより
私にしかないものを見つけたら
唯一無二の宝物になる




次に、ご紹介するのは、橋小学校の職員による「言葉の力」です。それは「俳句」です。実は、分科で理科や書写を受け持っている柳沼祥子先生は、「俳句」の達人なんです。「第三十五回 伊藤園新俳句大賞」で佳作特別賞というすばらしい賞を受賞しました。全国で50万人ほどの方が参加した大会だったということです。

伊藤園の「お〜い お茶」のペットボトルに柳沼先生のお名前と俳句が掲載されました。その俳句は、



「留守にしております」小豆炊いています

先日、柳沼先生に、この俳句の解説をしていただきました。いろいろと想像できますが、皆さんは、どのような場面が思い浮かべられましたか。

俳句をやっていると、季節を感じる感性が高まります。語彙が深まります。五・七・五の中に、季節感が盛り込まれます。今度、柳沼先生から俳句の作り方を学びたいですね。

続いては、「読み聞かせ」です。橋小学校では、いつもポレポレさんが定期的に子どもたちへの「読み聞かせ」をしてくださっています。全校生が大好きな時間となっています。今回は、「おはなしたまご」さんが橋小学校に来てくださいました。話が始めると、すーっと引き込まれる子どもたち。言葉一つ一つから、想像を豊かに膨らませていく・・・本当に、言葉の力ってすごいですね。



「おはなしたまご」
11月11日(月)低学年
11月18日(月)中学年
11月25日(月)高学年

校長のひとりごと

今日の学校だよりは、「言葉の力」特集でした。言葉って不思議なアイテムです。

その一言で励まされ その一言で夢をもち その一言で腹がたち その一言でがっかりし

その一言で泣かされるほんのわずかな一言が 不思議に大きな力をもつ

ほんの ちょっとの 一言で

相手の気持ちを考えて、一言一言、丁寧に言葉を発していきたい・・・そう考えています。